平成 30 年度　斜面樹林化技術協会現地見学会・技術研修会の開催報告

斜面樹林化技術協会 技術委員会

平成 30 年 12 月 6 日（木）に，斜面樹林化技術協会の現地見学会が館山自動車道鋸山トンネル旧工事用道路法面（千葉県富津市金谷地内）で開催されました。当日は協会員 10 名が参加し，施工 15 年 8 ヵ月後の植生状況を見学しました。

この現場は，周辺の常緑広葉樹林との調和を目的に，常緑広葉樹群落の形成を緑化目標とする法面緑化が試験的に採用され，平成 15 年 3 月 25 日に斜面樹林化工法が施工されました。地山は根系の伸長領域が限られる岩盤法面でありながらも，施工 3～4 年後には上層を先駆樹種（アキグミ・ヌルデ），下層を常緑広葉樹（シャリンバイ・ネズミモチ）が優占する植物群落が形成されました。現地見学会はあいにくの雨模様でしたが，施工 15 年 8 ヵ月後にはネズミモチ，シャリンバイなどの常緑広葉樹が主体となり，緑化目標を達成するとともに，導入種の根系が絡み合い地山をネット上に被覆している様子についても確認することができました。

午後からは，富津市民会館で技術研修会が行われ，東京農業大学地域環境科学部の橘准教授より「多摩川源流域におけるおよそ 100 年間の森林とその水収支の変遷」と題して，水収支の観点から森林の働きについてレクチャーしていただきました。続いて技術委員会から鋸山トンネル法面の植生推移と，新工法の斜面樹林化工法エコストライプ仕様についての施工事例の調査結果に基づく自然侵入促進効果について説明し，理解を深めていただきました。



参加者一同（背景が施工地）



現地見学会



技術研修会